

## 事業評価書（事後評価）要旨

### ○ 政策評価の対象とした政策

宮内庁の広報活動の推進（事業評価）

### ○ 政策の目的

宮内庁ホームページを充実し、皇室に対する国民の理解が一層深まるよう関連する情報の提供に努めることを目的とした。

### ○ 政策評価の結果の概要

#### （必要性）

宮内庁ホームページへのアクセスログの解析結果によると、直帰数が大きく減少している。このことは、逆に言えば、改修前の段階においては、同ホームページ上に訪問者の求める情報が掲載されていたとしても、当該情報に到達する前に離脱していた訪問者がそれだけ多かったということの意味するものと考えられるが、改修によって、そのような状況のある程度改善することができたと考えられる。

また、総務省行政評価局による日本工業規格のウェブコンテンツに関する「高齢者・障害者等配慮設計指針」への対応状況に関する調査によると、宮内庁ホームページの非対応率は調査対象全体の中で相対的に低い結果となっており、なお改善の余地はあるものの、改修の成果として、バリアフリー化のある程度進めることができたものと考えられる。

#### （有効性）

アンケート結果によると、改修前と比較して、情報が分かりやすく分類されている、知りたい情報に容易にたどり着けるという回答が高い割合を占め、皇室について幅広く基礎的な事項を紹介・解説する新規のコンテンツについてもおおむね肯定的な評価を獲得した。また、アクセスログの解析結果によると、平均PV数（訪問者1人当たりの閲覧ページ数）及び平均滞在時間が増加しており、宮内庁ホームページが活用される度合いが高まっていると考えられる。

#### （効率性）

改修に係るホームページ制作会社との契約については一般競争入札を実施し、経費の節減を図っており、また、改修により、掲載情報の更新・追加の作業を効率的に行うことができるようになっている。

#### （今後の課題）

閲覧者の利便性の向上、バリアフリー化については、インターネットをめぐる環境の変化にも対応していくことができるよう、民間のウェブサイト設計・診断の結果を分析するなど更なる配慮を続けていくこととし、現在評価されている点は今後も維持できるようにしたい。

また、掲載情報については、写真の掲載など、アンケートに寄せられた意見等を参考にしつつ、更なる充実化を図っていくこととしたい。

なお、今回のアンケート結果によると、宮内庁ホームページを「見たことがない」という回答が多数あったので、周知方法の工夫を検討することとしたい。

## 事業評価書（事後評価）要旨

### ○ 政策評価の対象とした政策

ITを活用した正倉院宝物の紹介（事業評価）

### ○ 政策の目的

正倉院宝物の調査研究資料を広く一般に紹介する正倉院ホームページ及び正倉院宝物管理システムを改修し、掲載情報を充実させることにより、正倉院宝物に対する国民の理解と関心の増進を図ることを目的とした。

- ・現在紹介中の正倉院宝物約250点を約3,000点まで充実させるとともに、画像データの追加掲載を容易に行えるシステムを構築する。
- ・システムのランニングコストを10%削減する。

### ○ 政策評価の結果の概要

#### （必要性）

今回聴取した学識経験者の意見において、正倉院ホームページのリニューアルによる情報提供の充実化について、有意義であったとの評価がなされている。また、同ホームページへのアクセス件数を見ると、開設時よりも今回のリニューアル時の方がはるかに高い数値となっており、このことは、開設以降、正倉院宝物に接する手段として同ホームページの存在が広く認識されており、同ホームページによる情報提供に対する需要が高い状態にあったことを裏付けるものと考えられる。

#### （有効性）

学識経験者の意見においては、宝物の検索を簡単に行うことができる、宝物に関する情報が充実・向上している、世界的な学術的価値を有するデータの公開であり格段の意義を持っている等の評価がなされている。また、正倉院ホームページへのアクセス件数を見ると、1人当たりのページビューがほぼ10を超えており、このことは、利用者が同ホームページのコンテンツをある程度活用していることを裏付けるものであると考えられる。

#### （効率性）

旧システムの運用経費の合計は103,020千円（運用期間93か月）となっており、1月当たりには換算すると約1,108千円であった。これに対し、新システムは、平成22年度から4か年国庫債務負担行為で総額29,928千円（運用期間48か月）で契約しており、1月当たりには換算すると約624千円となるので、大幅なコスト削減となっている。

#### （今後の課題）

正倉院ホームページで紹介する正倉院宝物の点数については、平成22年度の時点で439点となったが、今後、3,000点を目標として、毎年度100点から200点の追加を行うこととしたい。

また、今回聴取した学識経験者の意見のうち、部分写真の追加については、定期的に追加する準備が整ったので、順次対応していくこととしたい。宝物名の英語表記は必要であるとの指摘については、将来的に英語版ホームページを構築することも含めて、今後検討していくこととしたい。

さらに、正倉院宝物に関する情報提供をより一層充実した内容にしていくための検討を行い、国民の利便性の向上と正倉院宝物に対する理解と関心の増進に努めることとしたい。